

## 令和2年3月期 中間決算情報

令和元年12月20日

会社名 **首都高速道路株式会社** 上場取引所 非上場  
 U R L <http://www.shutoko.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宮田 年耕  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 田部井 聡 (TEL)03(3539)9297  
 半期報告書提出予定日 令和元年12月20日  
 中間決算補足説明資料作成の有無 : 有・無  
 中間決算説明会開催の有無 : 有・無

(百万円未満切捨て)

### 1. 令和2年3月期中間期の連結業績 (平成31年4月1日～令和元年9月30日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は、対前年中間期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2年3月期中間期	177,643	6.2	4,403	1.2	4,449	△1.4	2,803	△4.9
31年3月期中間期	167,229	△14.8	4,349	△47.1	4,513	△45.5	2,946	△81.2

(注) 包括利益 2年3月期中間期 3,170百万円 (△6.0%) 31年3月期中間期 3,371百万円 (△81.8%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2年3月期中間期	103.84	—
31年3月期中間期	109.13	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2年3月期中間期	432,056	68,397	15.7	2,512.85
31年3月期	450,702	65,227	14.4	2,397.39

(参考)自己資本 2年3月期中間期 67,847百万円 31年3月期 64,729百万円

### 2. 令和2年3月期の連結業績予想 (平成31年4月1日～令和2年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	643,300	66.6	3,100	△19.6	3,200	△23.3	2,000	△30.0	76.31

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有・無

※ 注記事項

(1) 当中間期における重要な子会社の異動（連結範囲の変更に伴う特定子会社の異動） : 有・無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有・無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 有・無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 有・無  
 ④ 修正再表示 : 有・無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2年3月期中間期	27,000,000株	31年3月期	27,000,000株
② 期末自己株式数	2年3月期中間期	-株	31年3月期	-株
③ 期中平均株式数(中間期)	2年3月期中間期	27,000,000株	31年3月期中間期	27,000,000株

(個別業績の概要)

1. 令和2年3月期中間期の個別業績（平成31年4月1日～令和元年9月30日）

(1) 個別経営成績 (%表示は、対前年中間期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2年3月期中間期	175,493	6.1	3,426	△12.2	3,987	△9.9	2,917	△10.8
31年3月期中間期	165,364	△15.0	3,903	△45.0	4,427	△45.1	3,268	△79.6

	1株当たり 中間純利益
	円 銭
2年3月期中間期	108.03
31年3月期中間期	121.05

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2年3月期中間期	408,328	57,924	14.2	2,145.36
31年3月期	431,072	55,007	12.8	2,037.32

(参考)自己資本 2年3月期中間期 57,924百万円 31年3月期 55,007百万円

2. 令和2年3月期の個別業績予想（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	638,200	67.2	1,200	△0.7	1,800	△3.5	1,500	△4.1	56.83

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・前述の連結業績予想及び個別業績予想に記載している数値は、当社が現在入手している情報を基礎とした判断及び仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確実性及び今後の事業運営等による変動可能性に照らし、将来における当社の業績と異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間期の連結業績等に関する定性的情報.....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報.....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報.....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報.....	4

## 1. 当中間期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

#### ① 当期の経営成績

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善に加え、企業収益が高い水準で底堅く推移したことを背景に、輸出を中心に弱さが続いているものの、緩やかに回復しました。個人消費についても、持ち直しの動きがみられました。

こうした状況の下、高速道路事業において、お客様により安全・快適に首都高速道路をご利用いただくため、道路施設の損傷の早期発見のための点検の推進、発見した損傷の補修、自然災害への対応、走行環境の改善等に取り組んでまいりました。

当社の利用交通量は、前年同期比0.1%増の101.3万台/日となっております。

また、高速道路事業以外の事業として、5箇所の都市計画駐車場等の駐車場事業、首都高速道路上の20箇所のパーキングエリアの運営及び管理等を展開してまいりました。

当中間連結会計期間の業績は、営業収益が前年同期比6.2%増の177,643百万円、営業利益が前年同期比1.2%増の4,403百万円、経常利益が前年同期比1.4%減の4,449百万円、法人税等を控除した親会社株主に帰属する中間純利益が前年同期比4.9%減の2,803百万円となりました。

なお、セグメントごとの業績の概要は下記のとおりであります。このセグメント別の売上高及び営業損益にはセグメント間取引を含んでおります。

#### ② 主な事業セグメント別の状況

##### [高速道路事業]

##### (ア) 営業収益

当社グループは、首都高速道路のネットワーク整備の推進と営業路線の清掃・点検等の適正な管理を24時間365日体制で実施しており、営業路線延長は320.1kmとなっております。

料金所周辺での渋滞緩和やお客様のキャッシュレス化による利便性の向上等を図るため、従来からETCの普及に努めているところです。ETCの利用率は、令和元年9月平均が95.8%となり、前年同月比0.2%増となっております。

また、お客様サービスの一層の向上のため、ドライバー向けの情報に特化したカスタマーサイトの運用、グリーンポスト及びお客様満足度調査等を通じて得られたお客様の要望や意見の各種改善への反映等により、サービス向上に努めてまいりました。

このような状況の中で、営業収益のうち、料金収入は、首都圏ネットワーク整備の進捗に伴う利用形態の変化等の影響により、前年同期比1.0%減の133,930百万円となりました。

高速道路の新設については、横浜環状北西線等4路線17.5kmの整備を行ってまいりました。

また、高速道路の改築等については、中央環状線機能強化事業として小松川JCTの新設等の実施、舗装の打ち替え等営業中路線において必要となる構造物等の修繕を行ってまいりました。

営業収益のうち、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構への資産引渡しに伴う道路資産完成高は前年同期比46.8%増の21,300百万円となりました。

以上の結果、営業収益は前年同期比3.6%増の155,310百万円となりました。

(イ) 営業利益

道路資産完成原価が前年同期を上回ったこと等により、営業費用は前年同期比3.7%増の151,458百万円となったものの、営業利益は前年同期比0.4%増の3,851百万円となりました。

[駐車場事業]

(ア) 営業収益

都市計画駐車場及び高架下等駐車場において、お客様がご利用しやすい料金の設定による定期駐車や時間貸し駐車営業を行ってまいりました。

営業収益は前年同期比3.0%減の1,576百万円となりました。

(イ) 営業利益

営業費用は前年同期比0.1%増の1,174百万円となり、営業利益は前年同期比11.1%減の401百万円となりました。

[受託事業]

(ア) 営業収益

国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等を行ってまいりました。

営業収益は前年同期比31.9%増の19,326百万円となりました。

(イ) 営業損失

営業費用は前年同期比32.0%増の19,357百万円となり、営業損失は30百万円（前年同期は11百万円の営業損失）となりました。

[その他の事業]

(ア) 営業収益

休憩所等事業として、首都高速道路上20箇所のパーキングエリアにおいて、お客様が気軽に立ち寄れる都市型パーキングエリアの実現を目指し、川口PAにおいて一般道からの歩行

者専用出入口を設置する等、より利用しやすい施設の運営を実施してまいりました。

また、高速2号目黒線高架下賃貸施設及びトランクルーム、高速埼玉大宮線与野付近の利便増進施設、社宅跡地等を活用した賃貸住宅の運営及び管理並びに当社グループが長年培ってきた技術力を活かしたコンサルティング事業等を行ってまいりました。

営業収益は前年同期比28.7%増の1,745百万円となりました。

#### (イ) 営業利益

営業費用は前年同期比22.1%増の1,565百万円となり、営業利益は前年同期比145.9%増の180百万円となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は、432,056百万円となり、前連結会計年度末に比べ18,646百万円減少となりました。主な要因は、有価証券が減少したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ21,816百万円減少し、363,659百万円となりました。主な要因は、道路建設関係長期借入金の減少したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ3,170百万円増加し、68,397百万円となりました。以上の結果、当中間期末における自己資本比率は15.7%となりました。

### (3) 連結業績予想に関する定性的情報

令和2年3月期の通期見通しとしては、料金収入については、2,656億円と前年度3月期に比して、30億円の減を見込んでいます。これは、首都圏ネットワーク整備の進捗に伴う利用形態の変化及び大型台風等の天候の影響によるものです。

高速道路事業については、営業中路線において構造物損傷の削減に取り組むなど安全で安心なサービスの提供に努めてまいります。

また、駐車場事業等については、お客様のご要望に合致した施策に努めてまいります。

このような状況の中で、当社グループの連結の営業収益としては、高速道路事業において料金収入が2,656億円、道路資産完成高が3,392億円、高速道路事業以外の事業の収益390億円と合わせて、合計6,433億円を見込んでいます。この結果、経常利益は32億円、当期純利益として20億円を見込んでいます。